

## 浜名湖で魚介類の先端研究



水産実験所は浜名湖の湾口から1.5kmほど内側に位置する弁天島に立地しています。もともとは知多半島と渥美半島にあった二つの施設で構成されていましたが、1970年に統合されて当地に移ってきました。

ここは、水圏生物科学専攻関連の2専修、国際開発農学専修、生圏システム学専攻の実習の場として利用されています。また、実験所独自の活動として、教養課程学生を対象とした全学体験ゼミナール、大学院学生を対象とした泊まり込みでの集中講義を実施しています。さらに、浜名湖を研究対象としている研究者が一堂に会して研究発表や意見交換を行う「浜名湖をめぐる研究者の会」を主催し、浜名湖研究の中核を担っています。

実験所には魚介類の飼育施設が充実しており、これを利



用して水産増養殖に関する研究活動が活発に行われています。特に最近では、海産養殖魚で初めてトラフグの全ゲノム解析が行われたことから、ゲノム情報を利用した様々な研究が行われています。これまでにトラフグの遺伝子の連鎖地図（それぞれの遺伝子がどの染色体のどの位置に存在するかを示した地図）を作成し、トラフグでは遺伝子上のたった一つの塩基の違いが雄雌を決定していることをつきとめるなどの成果を挙げてきました。現在も、ゲノム情報を利用した育種を目指した研究が行われています。これらの研究を語る上で技術職員のサポートを忘れるわけにはいきません。3名の技術職員は、海産魚の種苗生産技術、飼育技術に秀でており、これらの職員の力なしにはどの研究もなしえなかったでしょう。

実験所は、東南海地震の予想震源地の近傍に位置しており、震度7の激震が予想されています。津波の被害も予想されていますが、研究科のご尽力で2階建て本館の屋上に避難櫓を設置することができました。津波については不安が軽減されました。しかし、建物の耐震化や避難マニュアルの作成など、今後もハードソフトの両面から震災発生に備えていく予定です。